



# コスモスだより



2008年春号  
季刊 No.87

特定非営利活動法人「コスモスの家」  
〒214 0034 川崎市多摩区三田二一五-13  
TEL 044-931-2435 FAX 931-2443

## コスモスの家20周年を迎えて

—三田地域を元気なまちに—

理事長 渡辺ひろみ

川崎市多摩区三田の地ではじまった「コスモスの家」が今年で20周年を迎えます。

昭和41年日本住宅公団が建設した分譲の西三田団地は、明治大学と生田中学校以外何もない殺風景なまちでした。そこに、乳幼児・小学校低学年をかかえた30歳代の若い世帯の人達が引っ越してきました。

現在、三田のまちは主婦たちの住民主体の活動で、お墓以外ほとんどの公共施設が揃っています。

### コスモスの家のはじまり

コスモスの家は、「一番こわいのは孤独です」という一人暮らしになった高齢者の一言がきっかけとなり、団地集会所の和室、

週一回のミニデイ活動をはじめました。

あれから20年を経て、現在は「誰もが住み続けられるまちづくり」という理念を持ち、たかが主婦、されど主婦の女性達が身近で働き、介護の社会化をすすめてきました。

平成17年度からはじまった2度にわたる介護報酬の改定により、介護保険収入を主な財源とするNPO法人コスモスの家の運営は厳しいものが予想されます。

### NPO法人の使命

各事業のサービスの質の向上と、人材の定着により、利用者・家族はもちろんのこと、高齢者だけではなく、この三田地域に住む人たちの生活ニーズに 대응していくことが、NPO法人コスモスの家の使命です。そして、「地域住民のニーズに応えること」が、安定した収入を得ることにつながり、事業の継続が可能となります。ひいては、福祉の市場競争を乗り越えていくことになると思います。

現在、コスモスの家は、介護保険3事業、市委託2事業に加えて、ミニデイサロン、夕

食宅配や交流スペース「三田ふれあいセンター」を地域の人たちの誰でも自由に集える場として提供しています。一人暮らしになっても、障害を持っていても、安心して住み続けられる三田のまちを実現するためには、区行政、

社会福祉協議会、地域包括支援センター、団地管理組合、町会、自治会、民生委員さんなどのネットワーク化が目指され、住民への日常的連絡や見守り、対応が必要なのです。

三田のまちの中心部にある市直営の三田あすみの丘（介護老人保健施設）など、既存の公共施設との連携で、これからも「住み続けることができる仕組み作り」を模索していきたいと思えます。

### コスモスの家が目指すもの

コスモスの家は、スタッフの専門性とボランティアさんの協働なしに、①安定した事業運営を続けること、②三田地域のネットワーク化、③公民協働のまちづくりを実現することができません。

加えて、住民主体で地域の福祉力を強めることが、大きくは、国の医療・福祉施策の後退をとめることになると思えます。



## 「研修会報告」

### 「どこで最期を迎えたいですか」

三田あすみの丘所長

森井誠二先生

平成20年2月9日、三田あすみの丘所長森井先生に講師として来て頂き、研修会を実施しました。以下、森井先生の講演内容です。(要約)

「自宅で、家族に看取られたい」と思っても、家族への負担や往診する医師がいらないことなどの理由により、選択の余地なく医療機関で最期を迎える場合が多い。それは、在宅での看取りを支える社会的なシステムがないからです。その結果、医療機関で最期を迎える方が多いということです。

そこで、地域で高齢者の看取りシステムを育てることが大事。医療を軸とした看取りを反省し、福祉や介護も加わり、地域の医師、それも、広い視野でお年寄りを看守りながら、お年寄りと一緒に生きていく「総合医」や介護スタッフを育てることが大切。

介護事業所・NPOなどによる啓蒙活動で孤独死を予防し、地域ホスピスや地域終末期

ケアを構築、老人介護施設でも看取る、というものなど、**地域で高齢者の看取りシステムを育てることが緊急課題だ**ということでした。

最後に、「満足死」とは、「本人・家族のみならず、医療・介護スタッフ全員が満足・納得する死」のこと。死を語るのは本人ではなく家族であり、「死は家族のもの」。亡くなる前に死んだ時の対応や考えなど、ご本人と家族はよくコミュニケーションをとることが大切。

「どこで最期を迎えたいか」。希望と現実の間には大きな差があり、希望に近づけるためには、医療、福祉、介護、そして地域がバラバラでは難しく、連携したシステム作りが必要なことだと、意識を新たにした研修会でした。来年度から、川崎市介護老人保健施設「三田あすみの丘」の運営主体が変わる可能性もあり、非常に意味のある研修会でした。(滝口)



森井誠二先生



## 本田メモ 「NPOと個人」

「NPOは社会の改革のみならず、一人一人の人生の改革にも関わっている」(『NPOという生き方』P.170新書)。社会的活動を行うNPOが、なぜ個人にまで影響するのか、「コスモスの家を通して考えたいと思います」。「コスモスの家は、利用者、家族、スタッフ、ボランティアなど、様々な形態で関わる「個人」の集合体です。関わる個人は、NPOという装置によって、自由に、主体的に生きることも可能になります。P・Fドフラガーは、「自由にして機能する」組織を理想としました。これからも社会的な要求にこたえつつ、「主婦が近場で安定した収入を得る」ような、個人の目的も達成し得るNPOになる必要があり、これからも実現させていくことが望まれます。

また、「多様な個人」がいることは、変化に対応できるための一つの手段です。鶴見和子は中村圭子氏との対談の中で、「多様性があるから、生物や社会は生き続けられる」と話しています。これからいかにして、「変化」に対応できる法人になるか、組織になるか、個人になるか、ということが大事になってくるのだと思います。(社会福祉士・本田)

# 「レポート」

## 介護報酬、引き上げの財源は

### 国の責任でして下さい。

—全政党の国会議員に福祉現場の実状を訴える—

「高齢社会をよくする女性の会」や「市民福祉団体全国協議会」、各種NPO団体などの呼びかけで4月15日（火）夕刻「介護人材確保・待遇改善」に向けての決起集会が開かれました。麴町の剛堂会館に要介護者、家族、介護保険事業者、介護労働者など257名が集まりました。各政党から、国会議員7名の介護人材の確保、待遇改善が今すぐ必要だと、4分発言があり、与党・野党ともに、介護の問題については、「各党間多少の温度差はあるが、頑張っていきたい」と発言がありました。今回の集会は、介護保険をより良い制度にするために、事前に厚生労働省に福祉現場の現状をアピールし、国会で改善の法案を、何としても成立させなければいけないという危機感溢れたものとなりました。

介護現場からの3分発言では、介護職は、ドンドン辞めていくので、利用者に良いサービスが出来ないなどの報告がありました。

制度があっても、介護保険料を払い続けても、介護認定で、介護サービスを使えることになっても、使えるサービスが機能しない、という恐ろしいことが、進行しています。

まために、次のようなスローガンが採択されました。「人間以外の動物は、子育てはするが、介護に値する行為はしない。①人間らしい待遇を求めます。②介護する人が幸せでなければ、介護される人は幸せではない。」

先に述べた動きにより4月5日（金）衆・厚労委の起草による「介護従事者等の処遇改善法案」が採択されました。  
（渡辺）



※今回「レポート」の枠では、「介護人材確保・待遇改善」に向けての決起集会に参加した渡辺理事長のレポートを掲載しました。これからも、皆さんの自由なご意見やレポートを掲載したいと思しますので、ドシドシとご応募ください。

## 第6回 三田花見の会

### が開催されました!

平成20年3月30日、第6回三田お花見の会を生田中学校創作活動センター（元KCセンター）で開催しました。当日の桜は満開で、約80名近くの参加がありました。

今回は詩吟やハーモニカ愛好会に加え、三田小学校PTAコーラス部の方々に素敵な歌声を披露していただきました。





**お雛様の色紙づくり**

光の春の名のとおり、明るい日差ししの差し込む部屋で、今日は毎年何らかの形で作り続けてきたお雛様を作りました。

千代紙選びから始まって、細い袖口の振りまで、大小様々な柄と色が机の上いっぱい広がりました。

そして、それを折ったり切ったり、貼ったりしながら男雛と女雛が出来上がり、色紙に仲良く並べて貼りました。

最後に、切り抜いた桃の花を形よく並べ、枝を描いて出来上がりました。以前工作で色紙を飾る額を作ったので、そこに入れて家で飾ってもらうことになりました。

各々のお家で、このお雛様はどのような過ごし方をされるのでしょうか。(杉村)



宮前コスモスの家は、平成20年4月から奇数月の第4木曜日にお食事を、毎月第1木曜日に栗山先生の絵をすることになります。これまでの自宅でのサロンとして、今後ともコスモスの家の事業の1つとして残ります。



**四月三日**

桜の花見を兼ねて近くの山田富士まで散歩に出かけました。有馬は植木の里なので四季を感じる事が出来ます。隣接する横浜市も緑がいっぱいで花もいっぱいです。散歩に最適なところです。



**口腔ケア  
はじめました！**



佐藤 恵子 先生

3月31日まで多摩区福祉センター 歯科衛生士として活躍しておられました。4月から早速、有馬コスモスの家に来て頂いています。

**施設長が変わりました。**



井口 絹代 施設長

新人の井口です。何かとご迷惑をおかけすることがあるとおもいますが見守って下さい。

**【プロフィール】**

出身地 岡山県  
住所 宮前区  
家族 夫、子ども3人、孫2人  
趣味 マラソン、登山、ガーデニング等  
信条 何時も前を向いているひまわり  
のように生きることです。

井口施設長は、多方面で活躍されていた看護師さんです。今後、有馬コスモスの家において、これまでの経験を生かした活動を展開してくれることを期待しています。(理事長)